

変えよう！ 杉並区政

杉並区議会議員 杉並わくわく会議代表

松尾 ゆり

本当に
子どもの
ため？？

学校統廃合、複合化、高層化… —変えられていく学校、これでいいの？—

杉並区は学校の建て替えに合わせて、他の施設との複合化（杉一小）や統廃合（杉四小・杉八小・高円寺中）による高層化を計画していますが、それぞれのご近所の皆さんにはご存じでしょうか。地域での説明会もなく、「そもそも複合化（あるいは統廃合、高層化）の必要があるのか？」という議論をする機会もないまま、教育委員会は計画を着々と進行させています。今後60年にわたって地域の子どもたちが使っていく学校です。本当にこの形でよいのか、決めるのは地域の皆さんです。厳しい目でチェックしましょう。

►阿佐谷では…

杉一小の敷地に阿佐谷地域区民センターと産業商工会館の機能を複合化する計画。現在提案されている案では、中杉通りに面する部

分が7階または9階建てになること。小学校と同じ建物に不特定の大人が利用するカフェやイベントスペース、ホールなどが設けられることに不安を感じます。

もともと杉一小は学校だけでも狭いのに、さらに小学校以外の多くの機能をつめこむのは、そもそも無理があると感じます。高層ビルの脇の狭い校庭という環境は子どものためとは思えません。

<けやきプールがなくなる!?

杉一小建て替えのためけやきプールを撤去してけやき公園に仮設校舎を建てるとのこと。学校が完成してもプールの再建はしない。「けやきプールは夏しか使わずムダ」が教育委員会の説明です。「学校のプールを温水にして一般開放すれば」の意見には「学校のプールは温水にしません」の一点張り。

(2016年度～けやきプール解体、2018～2020年度に校舎・複合施設建設工事予定)

►高円寺では…

高円寺中の敷地に杉四小・杉八小と統合した新しい小中一貫校が6階建てで建設されます。もともとそう広くない高円寺中の敷地に3校が統合されるため、校庭は現在の中学校よりも狭くなり、しかも、校舎を南側に配置するため校庭が日影に（図参照）。南向きの教室は数えるほどしかありません。統合後の杉四小・杉八小を何に使うのかは決まっていないといいますが、それなら、校庭・校舎ももっと活用できるはず。

6階建てなので上下移動の負担が大きいと思われますし、6～15歳の子どもたちが交錯することはないのか。教育委員会は「学校のほうで考えてもらう」と丸投げです。

(2016～2018年度に校舎建設工事の予定)

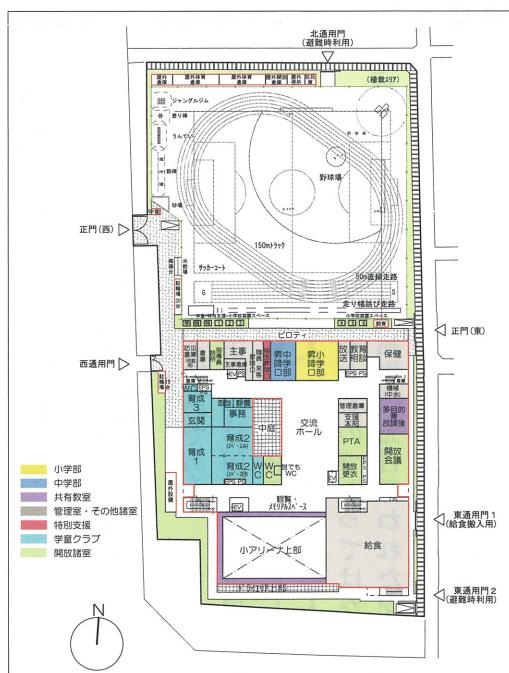
「軽減税率」騒動

2017年に予定されている消費税率10%に向け、自民・公明の与党が「軽減税率」について議論していることが報道されています。

しかし、本当に税負担の軽減になるのでしょうか。食品を販売する小売店は食品だけを仕入れるわけではありません。販売するときの包材などの物品には当然10%の税がかかりますから、その分は転嫁しなくてはなりません。一方、消費者は「食べ物の値段は上がらないのね」と買い物に来ますから、零細の商店ほど値上げは難しくなります。消費者も小売店も結局は負担が増えることになります。

2016年夏の参議院選挙を前に与党は、安保法案で低下した支持回復のため、なりふりかまわずバラマキに走ろうとしています。自民党が、まるで国民のために一生懸命議論しているように見せかけているのも選挙対策ですよね。

町の声は「だいたい軽減税率っていっても8%から上げないっていうだけでしょう。軽減じゃないわよね。」全く同感です。



高円寺小中一貫校見取り図（1階）
校庭は狭くなり、しかも日影に

「あんさんぶる荻窪」の財産交換はなぜもったいないのか

(松尾ゆりの一般質問要旨)



荻窪の町では、あんさんぶる荻窪の財産交換による児童館の廃止に懸念の声がますます高まっています。荻窪南口駅前の2つの商店街に「子どもの居場所を守れ」という横断幕がかかげられ(写真)、保護者などによる署名活動が行われています。4510筆の署名が区長あてに提出されました。

<財産交換には100億円かかる>

杉並区が計画している「あんさんぶる荻窪」と「荻窪税務署等用地」の財産交換には、約100億円の区民負担が必要です(図参照)。しかし、特養を建てるのに必要な約4000m²を国から購入すれば約20億円。賃貸でも50年定期借地で同額程度です。どちらがお得かは明白です。

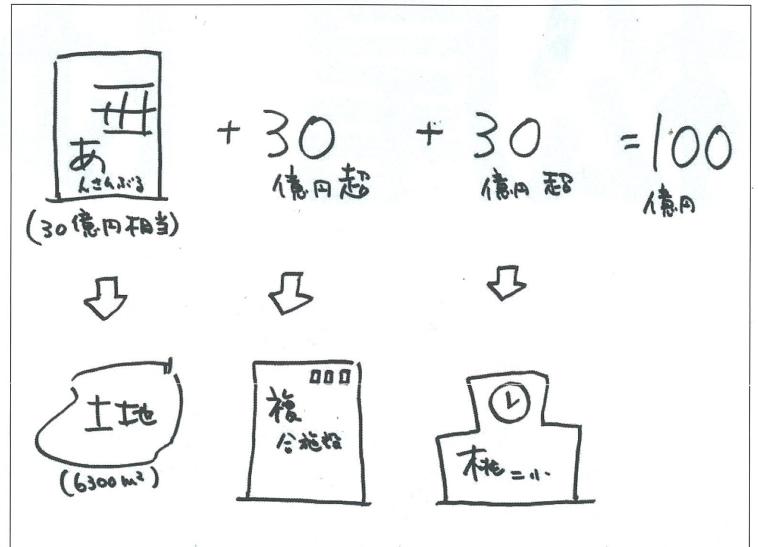
<特養建設に国有地を格安で>

しかも、いま、政府は「一億総活躍」政策で、特養を建てる場合には国有地を半額で貸し出すという計画を発表しました。また、東京都の補助金も土地代が半額程度になるものがあります。

<なぜわざわざ余分な建物を?>

上記のような制度を利用して特養を建てるものに、区はなぜ国と交渉しないのでしょうか。余計な

建物を建てるこそのものが目的なのではないかと勘ぐられても仕方ありません。



杉並区の計画では100億円の負担が生じる

- ①あんさんぶる荻窪と土地を交換 (あんさんぶるの土地建物は約30億円相当以上)
②あんさんぶる内の施設移転先の建設(30億円超)
③学童クラブの移転先の桃二小改築(30億円超)

①+②+③=100億円

ノーベル賞と科学館

11月30日の文教委員会では科学館の廃止が審議されました。松尾ゆりは廃止反対の立場で意見を述べましたが賛成多数で廃止が可決されました(12月8日本会議で可決成立)。1969年に科学教育センターとしてつくられ、全国の専門家、学校関係者から高く評価されてきた科学館であるにもかかわらず、その廃止を区民にろくに知らせず、いつ終わつたのかもあいまいな、屈辱的な形で幕を引かれることになりました。

折しも、ノーベル賞の季節。今年物理学賞を受賞された梶田隆章さんは、科学館の名誉館長も務められた小柴昌俊さん(2002年ノーベル物理学賞受賞)の薰陶を受け共同で研究された方です。

科学館には小柴さんの研究されたニュートリノや「カミオカンデ」に関する展示があり、今も参観することができます。先日は有志による



勉強会が行われ、子どもたちも含む多くの方が講師の話に熱心に聞き入りました。

沖縄・辺野古の新基地をめぐる

陳情が不採択に

沖縄の辺野古新基地の工事に国は強引に着手し、ゲート前の座り込みが毎朝暴力的に排除されています。東京からも警視庁の機動隊が派遣されているのです。

杉並区議会には、辺野古の基地問題に関して「地方自治の尊重を」と求めた陳情が出されました。松尾ゆりは、採択を訴えましたが、採決の結果は不採択となりました。

陳情の採択を求める

松尾ゆりの意見(要旨)

この陳情は、辺野古新基地反対の意思表示を求めるものではなく、沖縄県民の意思の尊重と、それを体現する沖縄県の自治の尊重を求めるものである。すなわち、杉並区にも共通する普遍的な自治

の確認を求めたものである。

また、安全保障は国の専権事項とはいって、地域、自治体の協力なしには成り立たず、また、地域に住む人々の安全を脅かすものであつてはならない。翁長知事は先日行われた記者会見で、「安全保障を掲げ、その中で地方は黙つておれということになつたら、国民の人権を無視することになろう。」「何も言うなと、問答無用だ」という形で、安全保障の名前で私たちを切り捨てようとするのは本当の意味での日本國の民主主義の在り方ではない」と述べた。

地方自治と民主主義の根幹にかかわる問題であり、自治体議会としての杉並区議会がこれを採択することは当然のことと考え、陳情の採択を主張する。